

1 島田市の概況

(1) 広域的位置

- 本市は静岡県中部に位置し、大井川の両岸に広がる面積約 315.7 km²の市域を有しています。
- 本市の中央部を新東名高速道路が東西に通過するほか、その南側には国道1号、JR 東海道本線・東海道新幹線及び東名高速道路が通るなど、交通の要衝となっています。
- また、本市の南端には富士山静岡空港があり、全国各地や世界をつなぐ空路の玄関口でもあります。

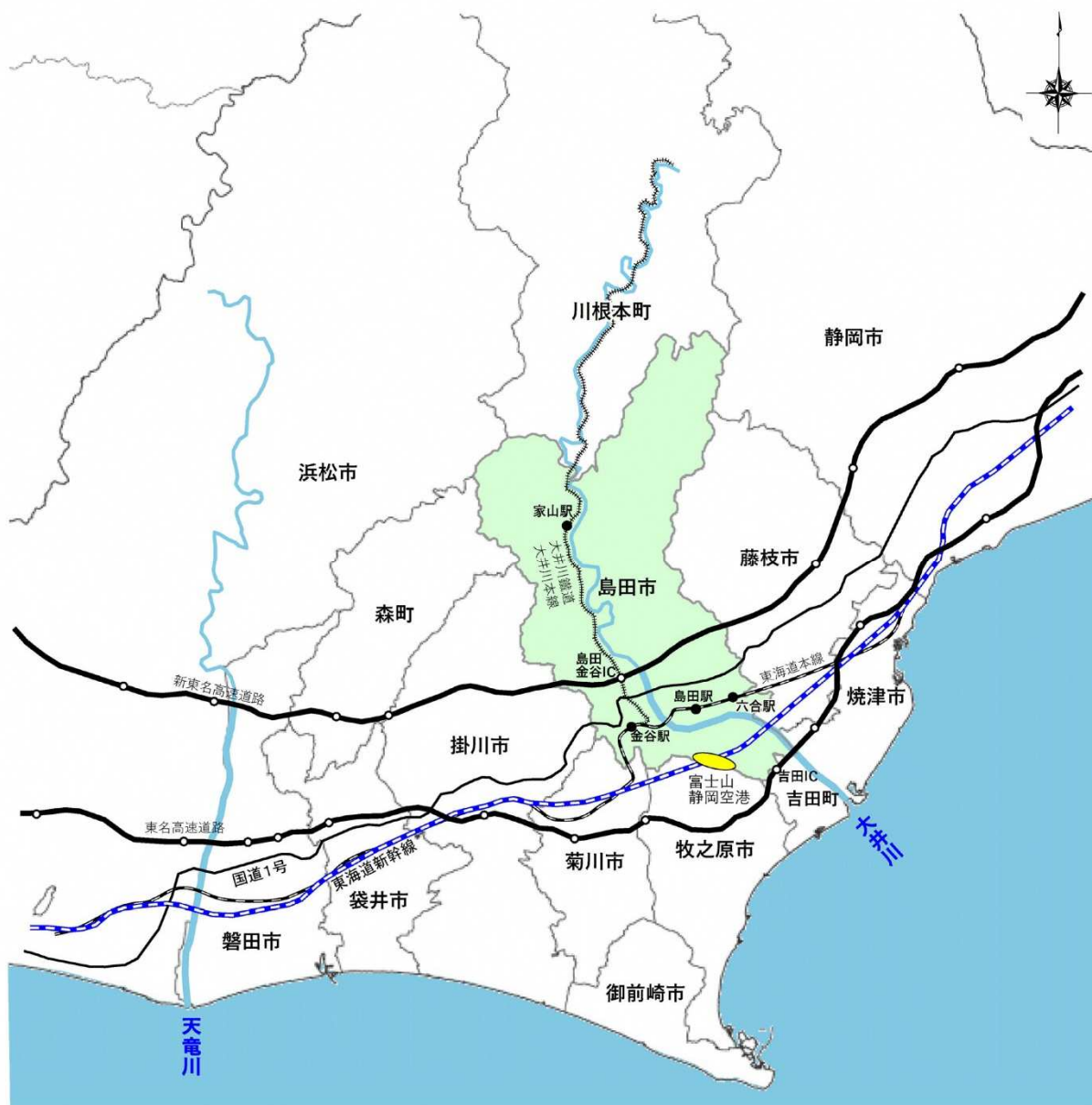


図 島田市の位置

(2)地域区分

- 本計画では、第2次島田市総合計画に基づき、島田市を下図のとおり6つの地域に区分しています。

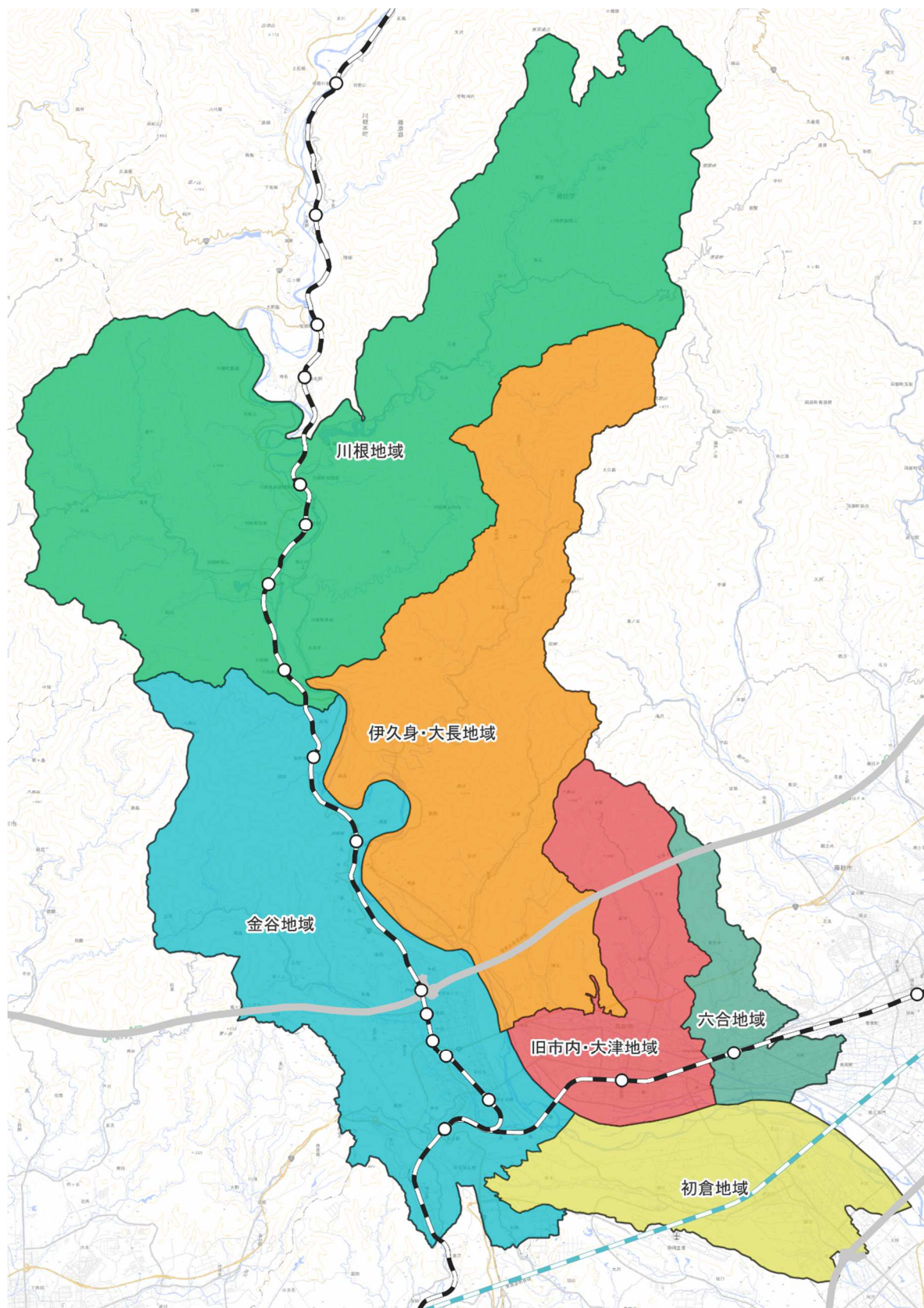


図 地域区分

2 人口

(1) 将来人口推計

- 国勢調査による本市の人口は、平成7(1995)年をピークに減少に転じており、令和2年の人口は95,719人となっています。
- 65歳以上人口は30,260人となり、総人口に占める割合(高齢化率)は31.6%となりました。

約20年後の2045年は人口約7万5千人、高齢化率は40%を超えると予測されています。(社人研推計準拠)

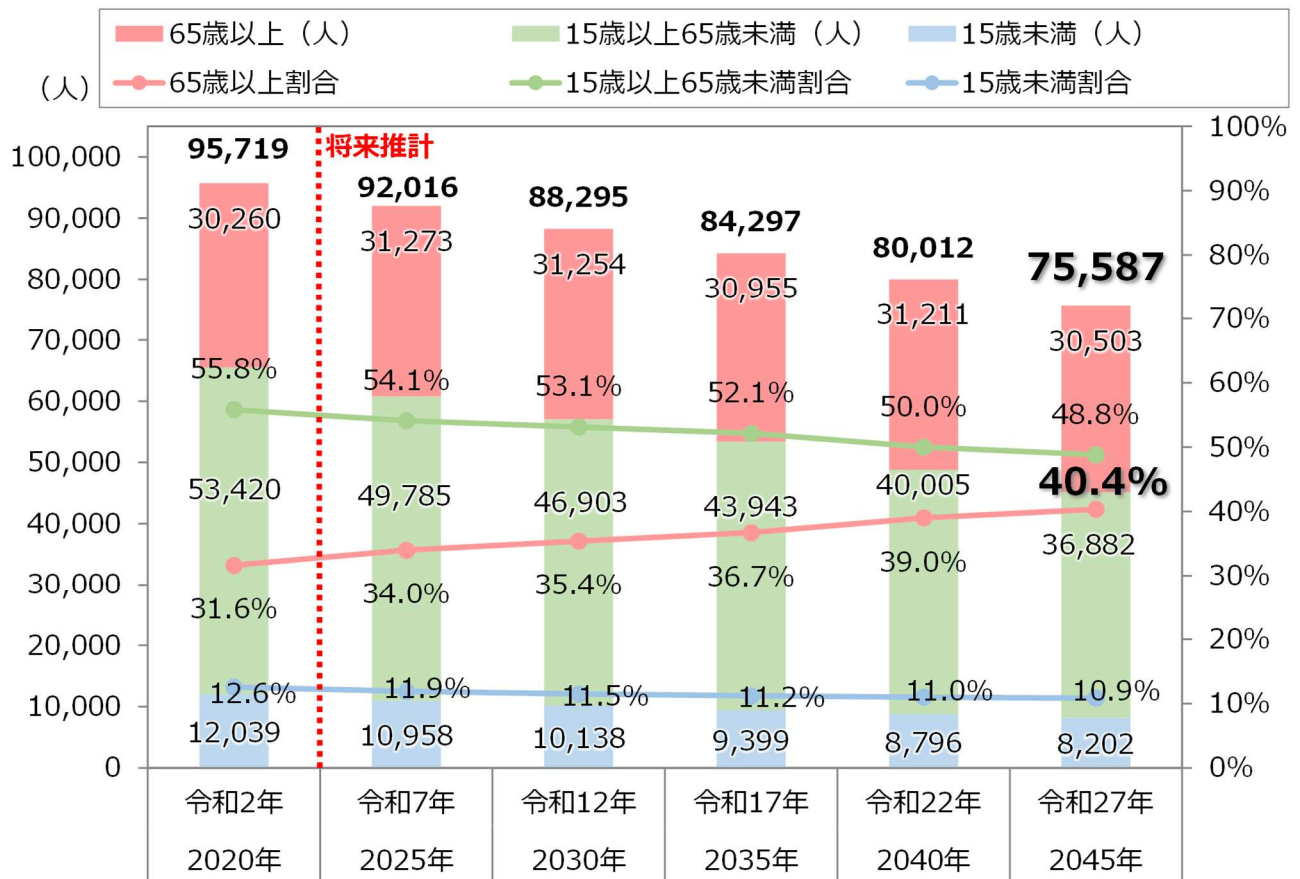


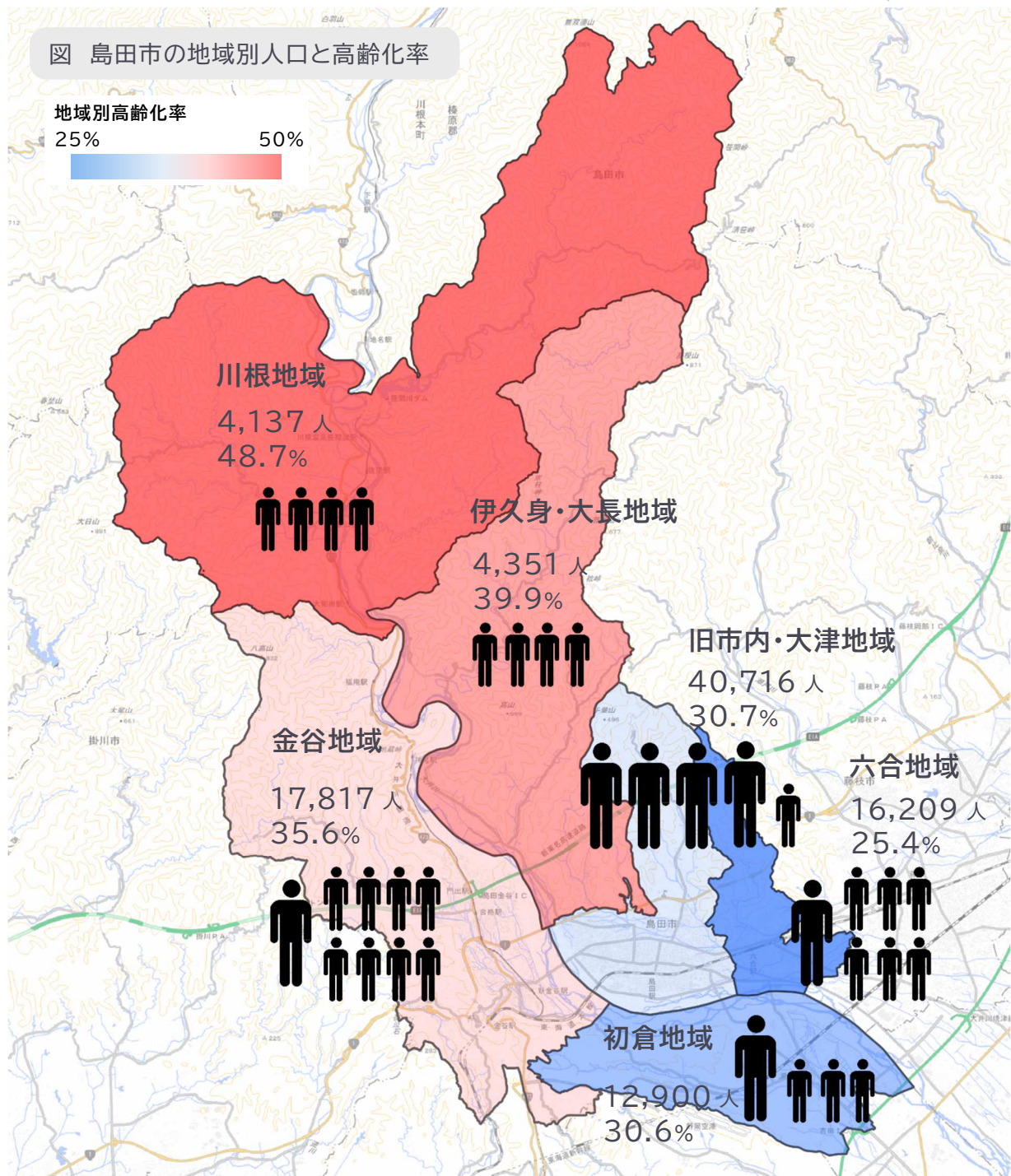
図 島田市の将来推計人口

出典: 統計センターしずおか、国立社会保障・人口問題研究所

(2)人口分布

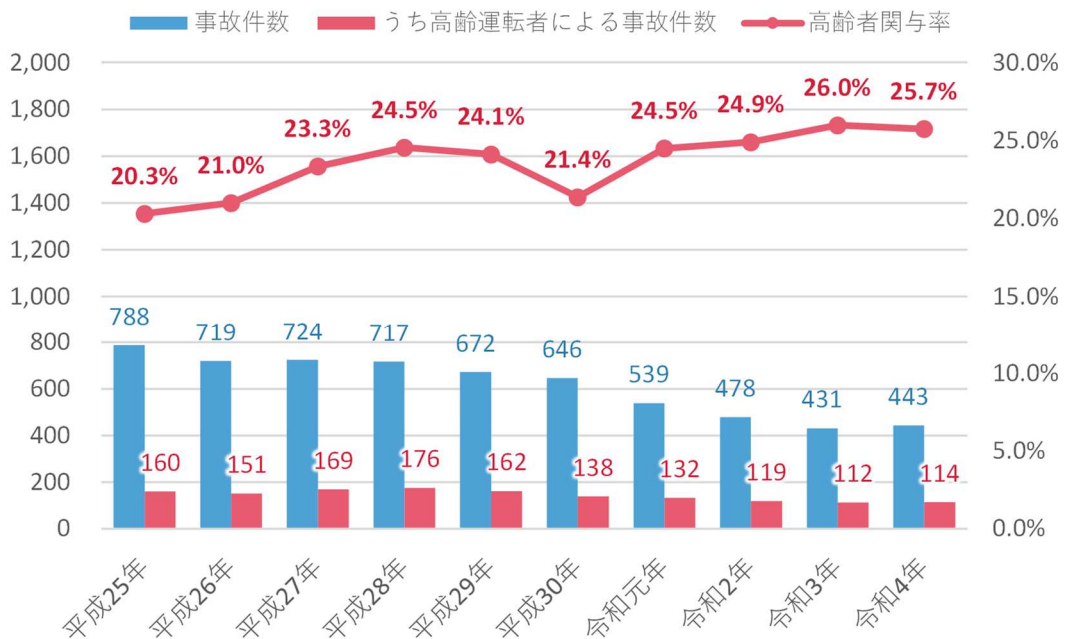
- 主に島田駅周辺に人口集積がみられ、「旧市内・大津地域」に市全体の約4割が暮らしています。
- 地域別の高齢化率をみると、川根地域住民の約 5 割、伊久身・大長地域住民の約 4 割が 65 歳以上の住民となっています。

地域別にみると、川根地域や伊久身・大長地域で特に高齢化率が高くなっています。



3 交通事故

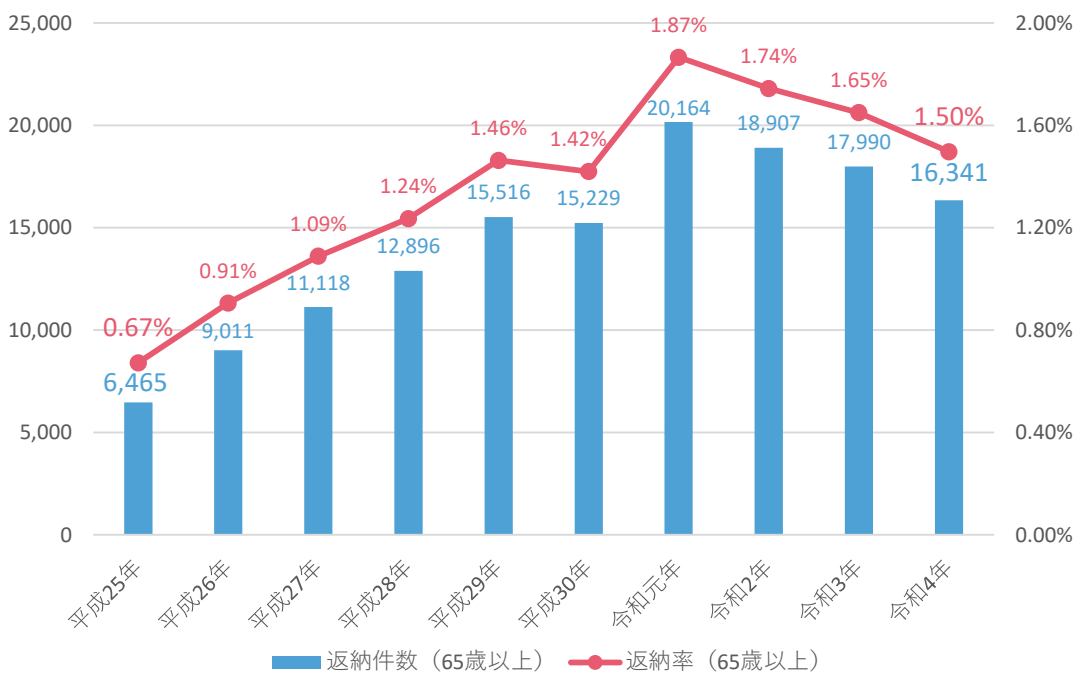
○ 本市の交通事故件数は減少していますが、高齢運転者(65歳以上)による事故の割合は増加しています。



出典:静岡県交通年鑑

図 島田市内交通事故件数

○ 高齢者の運転免許返納件数はここ10年間で増加傾向にありますが、人口に対する比率は2%にも満たない状況であり、自家用車による移動が生活の中心になっていることがうかがえます。



出典:静岡県交通年鑑

図 65歳以上運転免許返納件数

コラム 何歳まで運転し続けますか？

高齢運転者は、体力や経験などによる個人差は認められるものの、一般的には次の特性があるとされています。(平成29年交通安全白書(内閣府)より)

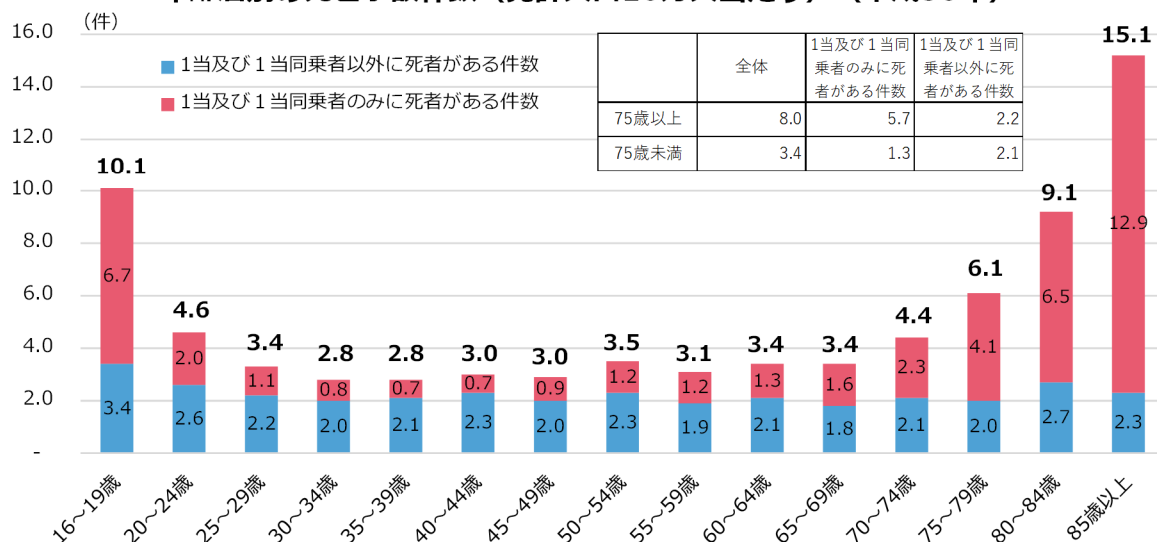
- 視力等が弱まることで周囲の状況に関する情報を得にくくなり、判断に適切さを欠くようになる
- 反射神経が鈍くなること等によって、とっさの対応が遅れる
- 体力の全体的な衰え等から、運転操作が不的確になったり、長時間にわたる運転継続が難しくなったりする
- 運転が自分本位になり、交通環境を客観的に把握することが難しくなる

下の図からわかるように、全国的にみると、75歳以上の高齢運転者による死亡事故の件数は、75歳未満と比較して非常に多くなることがわかっています。

「どこへ行くときもクルマを使うので、公共交通には興味がない」と感じる方もいることでしょう。しかし、年齢とともに運転のリスクは上がってゆき、いつか免許を返納した方がよい時がやってきます。免許返納後も自分の行きたいところへ移動し、家族の助けを借りることなく自立した生活を送っていくために、自家用車以外の交通手段を考えておくことが大切です。

島田市地域公共交通計画では、自力での移動が難しい方が安心して生活できる地域を目指し、将来の公共交通のあり方を検討しています。皆さんも、自分の地域の公共交通について一緒に考えてみませんか？

年齢層別の死亡事故件数（免許人口10万人当たり）（平成30年）



※ 算出に用いた免許人口は、平成30年12月末現在の値である。

・「1当及び1当同乗者以外に死者がある事故」については、1当及び1当同乗者に死者がある場合を含む。

・無免許の件数を除く。

※ 第一当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

出典：警察庁ホームページ

注釈：「1当」とは、「第一当事者(最初に交通事故に関与した車両等(列車を含む)の運転者又は歩行者のうち、この事故における過失が重い者)」のことを指す。

4 通学利用

本市では、市内小中学校の通学支援のために4地域でスクールバスを運行しています。また、高校と一部小学校ではコミュニティバス等の公共交通を利用して通学している児童生徒もいます。

今後、一部地域では市内小中学校の再編が予定されており、公共交通においても児童生徒の通学需要の変化が見込まれるため、関係機関と協議しながらダイヤ等の調整を行う必要があります。

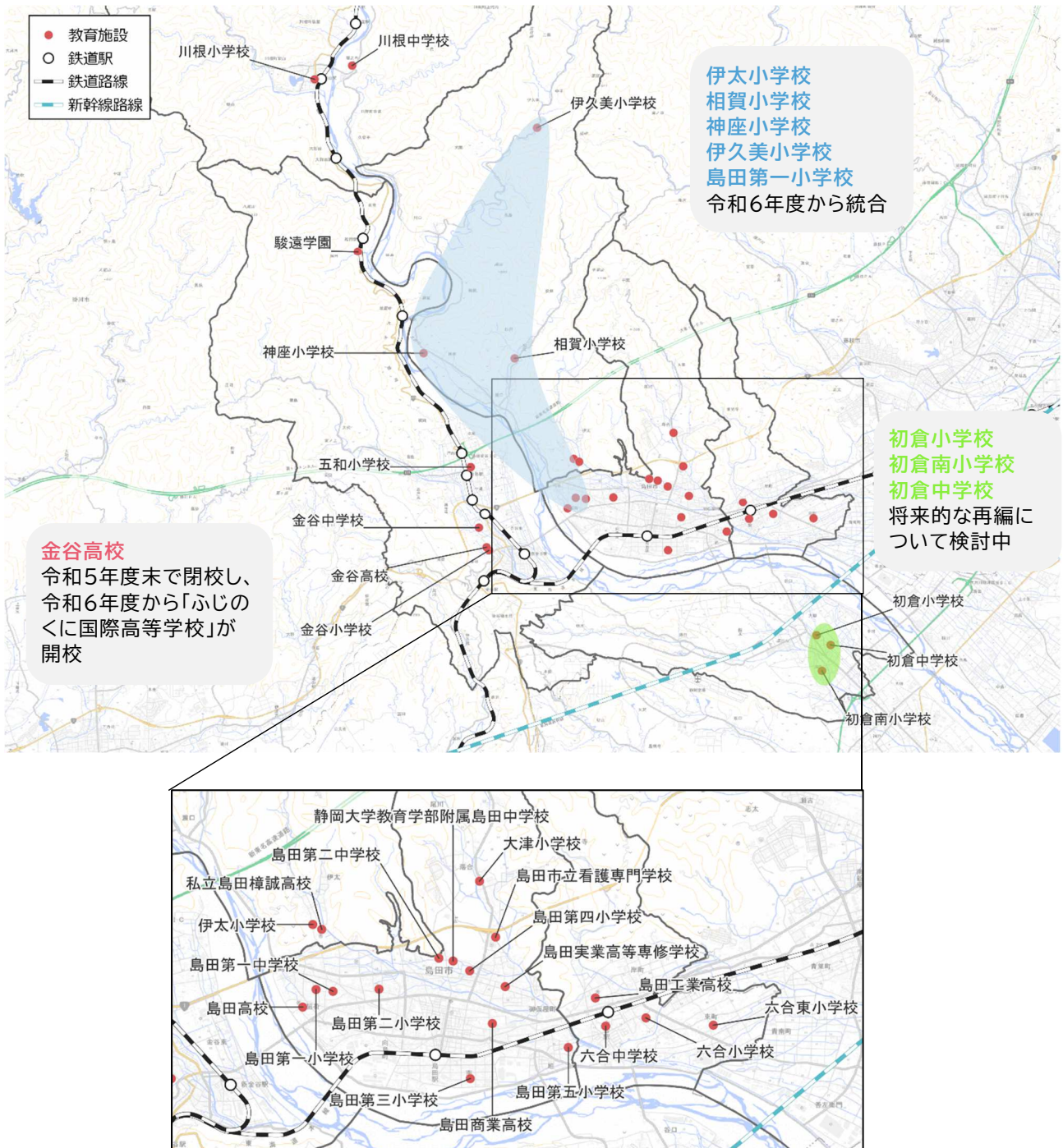


図 市内教育施設の分布

バス・鉄道の通学利用状況(小・中学校)

バスまたは鉄道を利用して通学する児童生徒がいる小・中学校は以下のとおりです。

スクールバスの利用状況については、今後も最新の情報を収集するとともに、コミュニティバスとの共用化、混乗化などの可能性を検討していきます。

※令和5年度時点

学校名	交通手段	居住地域	備考
伊久美小学校 (小規模特認校※1)	伊久身線	旧市内など	伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校及び島田第一小学校は令和6年度から統合
神座小学校	スクールバス	伊久身・大長	
	伊久身線		
島田第一中学校	スクールバス	伊久身・大長	
初倉小学校	スクールバス	初倉	将来的な再編を検討中
金谷小学校	スクールバス	金谷	
	萩間線		
	勝間田線		
五和小学校	スクールバス	金谷	
金谷中学校	スクールバス	金谷	
川根小学校	スクールバス (混乗路線)	川根	
	鉄道 (大井川本線)	金谷	
川根中学校	スクールバス	川根	
静岡大学教育学部附属 島田中学校	鉄道 (東海道本線)	藤枝市、焼津市など	
大津小学校(特認校※1)	大津線		令和6年度から特認校として指定され、他地域からの通学が発生する見込み

※1 特認校制度・・・一定の条件を満たし「特認校」として認定された学校に、従来の通学区域とは異なる地域からの通学を認める制度。

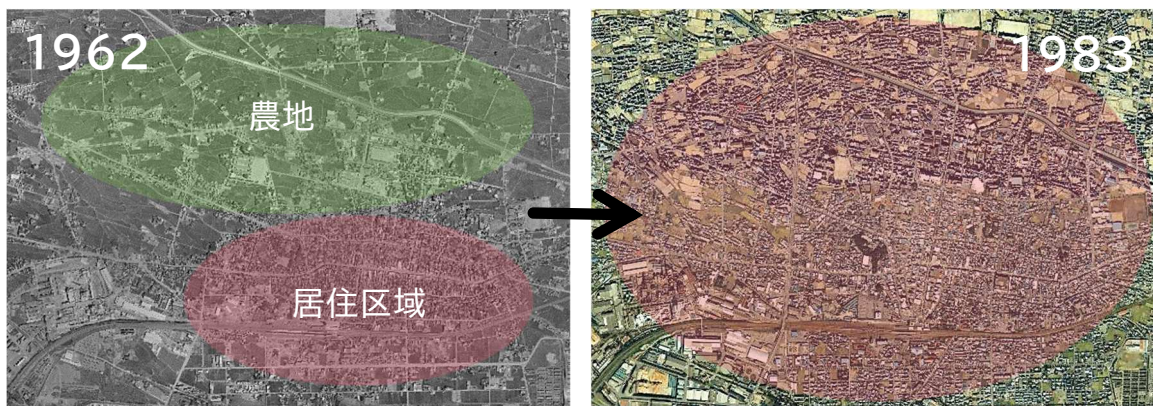
5 まちづくり

(1) まちづくりの方針

本市では、今後の人口減少社会に対応し、安全安心で快適な居住環境を形成するために、「島田市都市計画マスタープラン」および「島田市立地適正化計画」を策定し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくりを推進する方針を示しています。

用語解説 コンパクト・プラス・ネットワークとは？

高度経済成長期(1950年代半ば～1970年代初頭)、人口の増加や自動車の普及に伴い、中心市街地と比べて地価の安い郊外に住む人が増えていきました。宅地開発が進むにつれて、大型スーパーやショッピングセンター、医療施設などが郊外に建設、移転されるようになり、人々は広い範囲に分散して暮らすようになりました。



島田駅周辺の航空写真(出典:国土地理院)

しかし1990年代に入って人口が減少に転じると、中心市街地の人口密度が低下し、徐々に活力を失っていきました。商店街は衰退して空き店舗が増加し、駅前通りを歩く人の姿もまばらになってしまいました。

問題はそれだけではありません。税収の減少によって自治体の財政が苦しくなったため、医療や福祉の分野では、分散した人々の生活を支える十分なサービスを維持することが難しくなっています。また、高度成長期に建設した道路や橋などのインフラは一斉に老朽化し、補修が追い付かない事態が発生しています。

今後さらに人口減少と高齢化が進む中で、みんなが安心して暮らし続けられるまちを作っていくためには、住居や生活に必要な施設を小さなエリアに誘導して拠点をつくり(コンパクト)、それらをさまざまな公共交通で結んで行き来しやすくする(ネットワーク)必要があります。

この「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方をもとに、各地の自治体で都市計画が作られ、将来に向けた都市づくりが進められています。

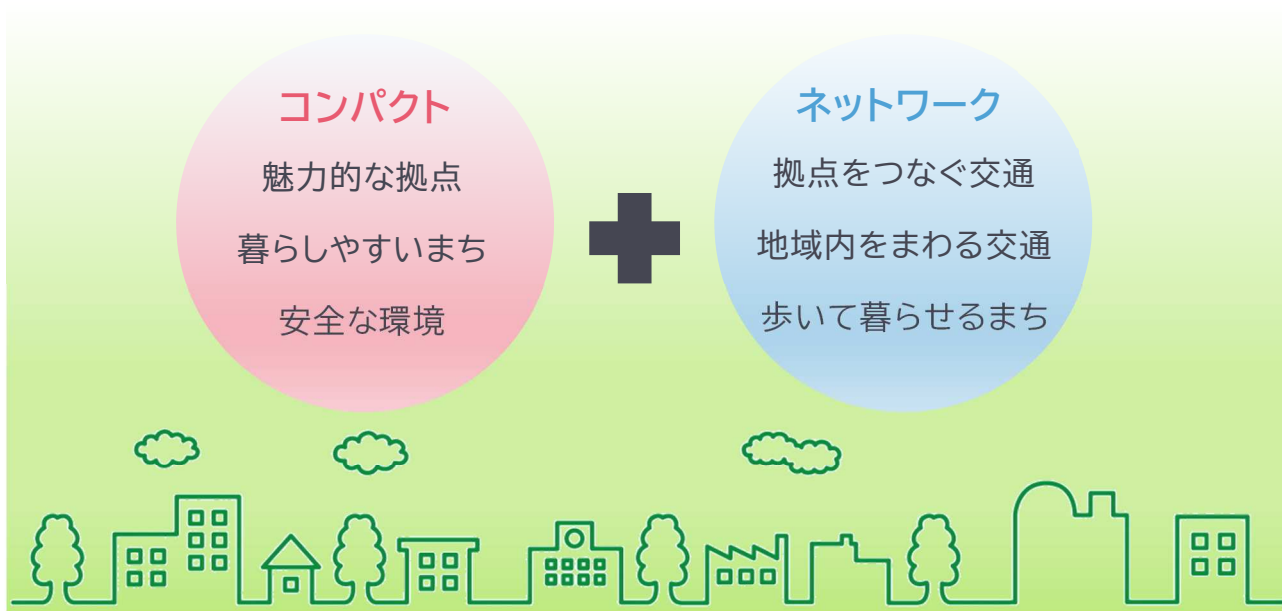
(2) 都市づくりのための施策

「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくりのために、

- 魅力的で暮らしやすい拠点を形成するための施策
- 拠点間や地域内をつなぐ公共交通施策

の2つを同時に進めていく必要があります。

本計画では、拠点間、地域内の公共交通施策についての方針を示しています。



コラム 魅力的な拠点をつくるために

島田市は令和元年度に「中心市街地活性化基本計画」を策定し、『まちなかで住み、楽しみ、働く拠点づくり』をテーマとして、魅力的な拠点を形成するための様々な施策に取り組んでいます。

島田駅前の緑地スペース「サンカク公園」では、公募で決定した事業者による飲食店の営業が行われています。また、商店街の空き家や空き店舗を再生する「リノベーションまちづくり」の取組により、新たな賑わいの創出に向けた環境づくりを進めています。

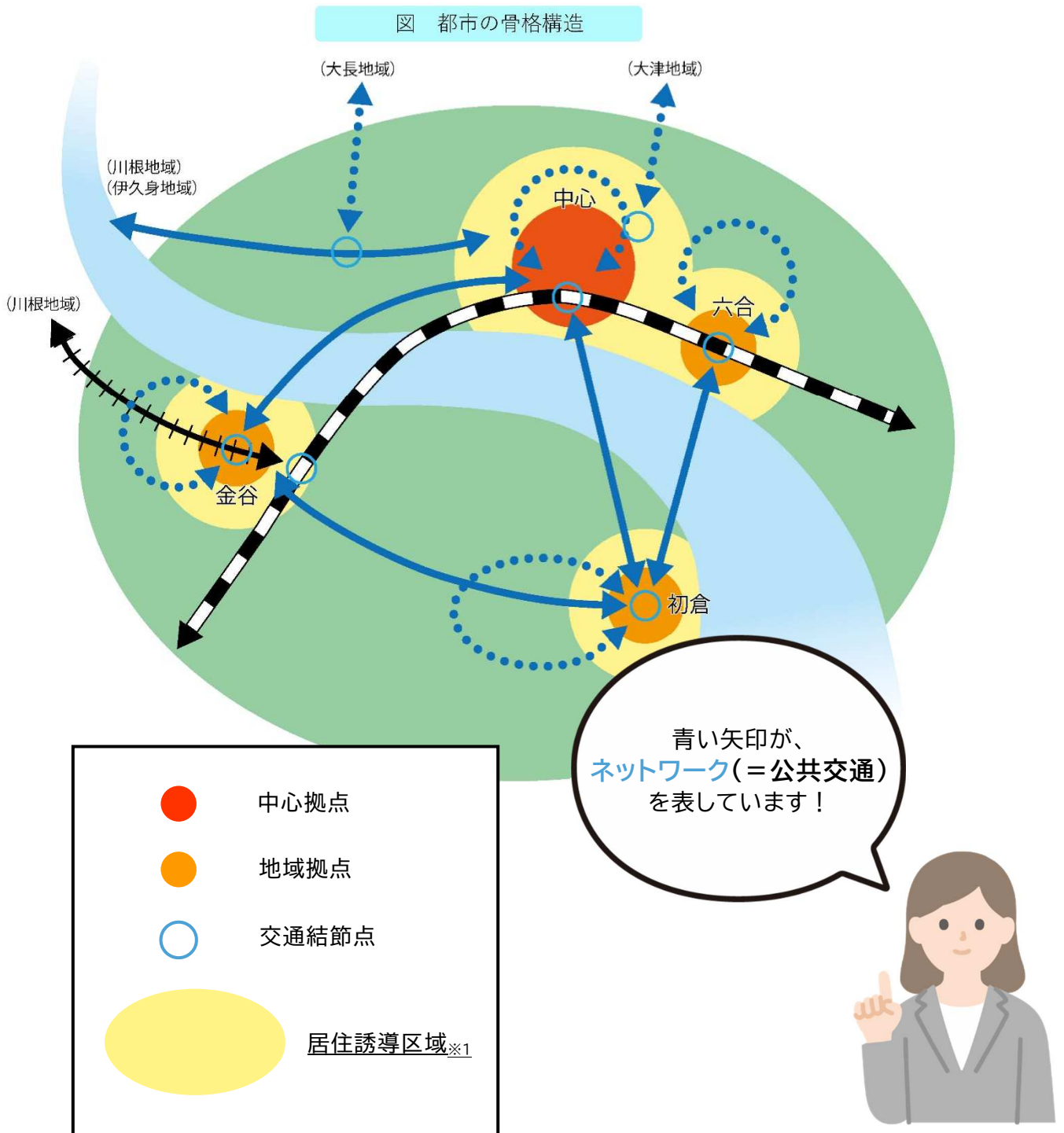
※「中心市街地活性化基本計画」の概要については、巻末資料をご覧ください。🔍▶ P.73



▲ 島田駅前サンカク公園の様子

(3) 都市の構造

島田市立地適正化計画では、都市づくりの方針を実現するために、都市の骨格構造を下図のように設定しています。



出典：島田市立地適正化計画

※1 居住誘導区域・・・生活サービスや地域コミュニティが持続的に確保されるために、居住を誘導し一定の人口密度を維持する区域。島田市立地適正化計画で定められている。

6 観光

(1) 島田市の観光資源

- 島田市は、自然や歴史、文化に由来する観光資源に恵まれています。また集客力の高い観光施設が複数立地しており、さらに KADODE OOIGAWA(R2.11～)やGlamping&Port 結(R4.3～)など新たな観光・レジャー施設も誕生しています。



(2)現状と戦略

施設ごとの年間来場者数は、コロナ禍において大きく減少しましたが、令和3年度からは回復傾向にあり、コロナ前の水準まで客足が戻っている施設もあります。

各施設の年間来場客数	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
川根温泉ふれあいの泉	259,038	241,451 (▲ 6.8%)	153,291 (▲ 36.5%)	154,757 (+ 1.0%)	153,216 (▲ 1.0%)
田代の郷温泉伊太和里の湯	186,849	184,492 (▲ 1.3%)	124,019 (▲ 32.8%)	146,295 (+ 18.0%)	169,369 (+ 15.8%)
島田市博物館(本館、分館)	42,292	34,728 (▲ 17.9%)	21,939 (▲ 36.8%)	26,387 (+ 20.3%)	28,806 (+ 9.2%)
蓬萊橋	114,354	103,157 (▲ 9.8%)	70,275 (▲ 31.9%)	90,768 (+ 29.2%)	114,777 (+ 26.5%)
大井川鐵道(SL、トーマス号)	284,313	222,663 (▲ 21.7%)	73,700 (▲ 66.9%)	83,225 (+ 12.9%)	87,159 (+ 4.7%)
ふじのくに茶の都ミュージアム※1	114,324	80,720 (▲ 29.4%)	36,341 (▲ 55.0%)	42,554 (+ 17.1%)	55,798 (+ 31.1%)
KADODE OOIGAWA※2	-	-	362,410	650,760 (+ 79.6%)	862,211 (+ 32.5%)
Glamping&Port結※3	-	-	-	-	12,080

※1 平成30年3月開館

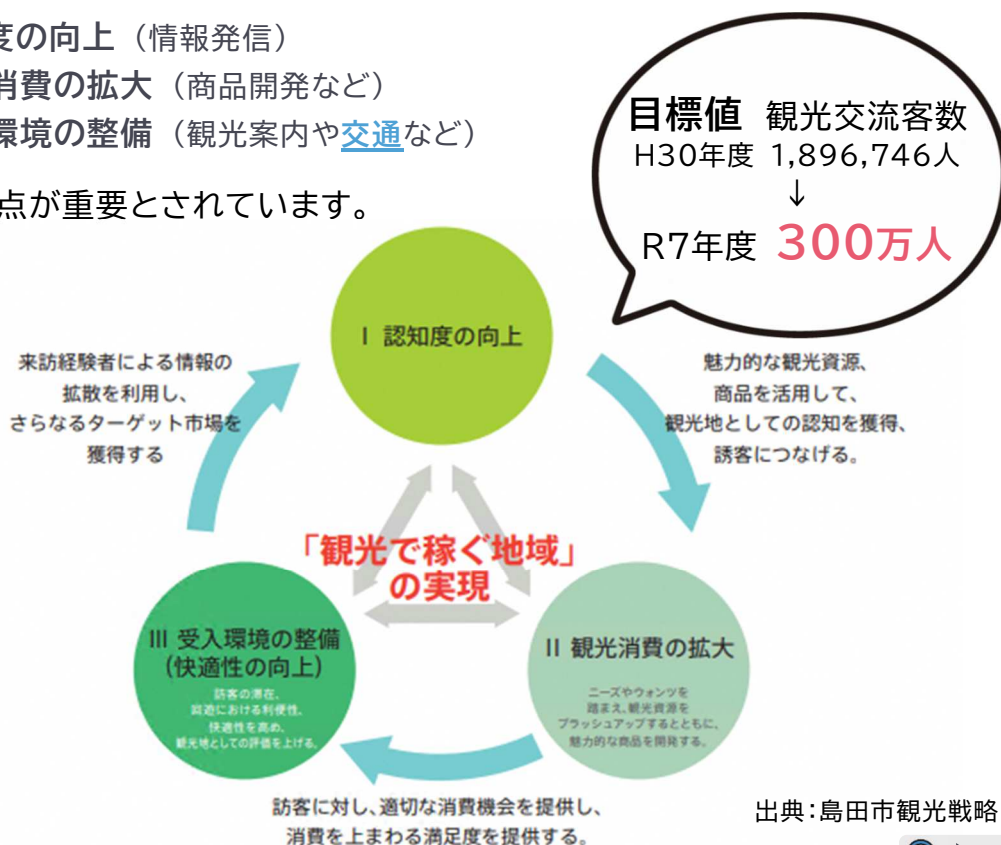
※2 令和2年11月開業

※3 令和4年3月開業

島田市が令和2年度に策定した「島田市観光戦略プラン」では、魅力的な観光コンテンツを持っている一方、域内の回遊を促す仕組みが不十分であることが課題として認識されており、「観光で稼ぐ地域」の実現のためには

- 1 認知度の向上 (情報発信)
- 2 観光消費の拡大 (商品開発など)
- 3 受入環境の整備 (観光案内や交通など)

の3つの視点が重要とされています。



出典：島田市観光戦略プラン

🔍 ▶ P.73

図 観光戦略における3つの視点

7 空港

(1) 富士山静岡空港について

- 富士山静岡空港は、島田市と牧之原市にまたがって立地しており、国内線及び国際線の定期便、チャーター便を運航しています。
- 新型コロナウイルス感染拡大により令和2年2月から国際線が欠航していましたが、令和5年3月から定期便の一部が再開し、今後は利用者が回復していくことが予想されます。

▼ 就航路線(令和5年冬ダイヤ)

▼ 富士山静岡空港の外観



(2) 空港から市内への移動

- 富士山静岡空港からは、JR 島田駅・金谷駅及び大井川鉄道新金谷駅にバスが運行しています。このほか、タクシー等で市内に誘客しています。

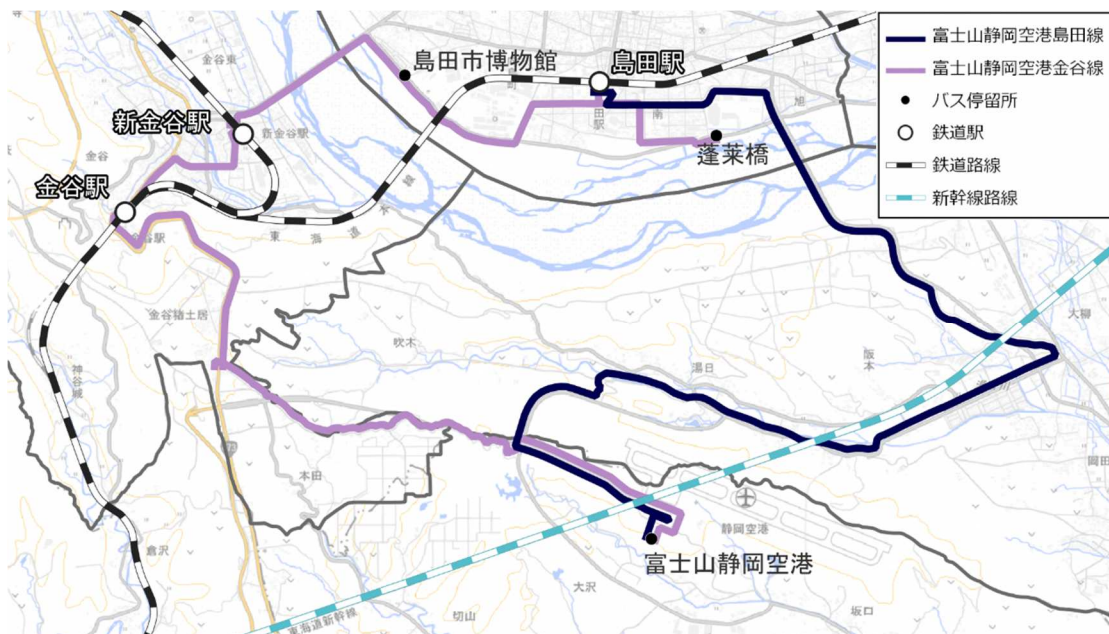


図 空港から鉄道駅へのアクセス(令和5年冬ダイヤ)